

図書館を変える広報力

—Webサイトを活用した情報発信実践マニュアル

田中 均 著

A5・210頁 定価(本体2,800円+税) ISBN978-4-8169-2377-7 2012年8月刊行



9784816923777

広報力を磨き 図書館のイメージを刷新

●最先端の情報を得られ、誰にも利用しやすくなるような工夫をこらしている現在の図書館をより多くの人々に伝えるために、図書館広報の方法や特色を解説した公共図書館向け実践マニュアルです。

実際の業務にすぐ役立つ

●展示・広報誌など従来の広報手段から、インターネットを活用した最新の情報発信の方法(図書館Webサイトの構築・SNS活用など)まで、時代状況に即した図書館広報の特色と具体的手法を詳細に解説、実際の図書館業務に役立ちます。

簡便なチェックシート付き

●図書館員が自館Webサイトの問題点の把握に生かせる、簡便な「図書館Webサイトチェックシート」付き。

目次

はじめに
序章 広報活動とWebサイトを重視する意味
第1部 図書館広報の理論・実践
1章 図書館の広報とは何か—最近の事例から—
2章 広報の理論
3章 インターネット時代の広報活動
4章 利用者へのPR
5章 社会・行政への働きかけ
6章 各種ツールの紹介と事例
第2部 図書館Webサイトの構築
7章 Webサイト作成の実際
8章 Webサイトのユニバーサルデザイン
9章 アクセシビリティ向上のための具体的方法
10章 ユーザビリティ向上のための具体的方法
11章 図書館Webデザインのポイントとコンテンツ
12章 図書館Webサイト向けのチェックツールとチェックシート
13章 まとめ
14章 巻末資料
おわりに
索引

著者プロフィール

田中 均 (たなか・ひとし)

1961年生まれ。明星大学大学院人文学研究科教育学専攻修士課程修了。国士舘大学附属図書館、桜美林大学図書館をへて、現在、昭和女子大学短期大学部文化創造学科准教授。共著書に『インターネット時代のレファレンス』(日外アソシエーツ、2010)『情報メディアの活用と展開 改訂版(学校図書館図解・演習シリーズ(1))』(青弓社、2009)他。

2017.1

お問い合わせは… 日外アソシエーツ 営業局

TEL.03-3763-5241(代) FAX.03-3764-0845
〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 <http://www.nichigai.co.jp/>

■貴店名	注文書	図書館を変える広報力 —Webサイトを活用した情報発信実践マニュアル 定価(本体2,800円+税) ISBN978-4-8169-2377-7	冊
		■お名前	

シフトの調整など複雑な作業を伴います。
この役目も図書館長に期待します。

4-3 対象者のカテゴライズ

非利用者への図書館広報の目的は、「自分たちの町に図書館があることに気づいてもらう」「地域の知的情報資源の集積地であることに気づいてもらう」ことにおかれます。「図書館に行ってみよう」という気持ちを持ってもらい、地域の利用者の増加を図っていきます。なお、利用者（数）の増加ではなく、もう少し広く「地域の読書力の向上」を図ることもできます。

これに対して既利用者への広報の目的は、「今まで以上に便利サービスがあり、各個人の状況に応じて提供できることを実感してもらう」、また「利用経験を周りの非利用者に広めてもらい、あるいは図書館への理解を広める」ことに主眼を置かれます。

利用者への広報を行う場合の対象者は、下記のようにカテゴライズすることができます。それぞれに対応する広報に若干の違いがある意識しておく必要があります。

- ①在住・在勤地別、または利用する館ごとの区別
- ②年齢層による区別
- ③情報の分野やメディアごとの区別
- ④情報の入手方法別



どこで -----
どのような利用者が -----
何を -----
どのように -----

→ 利用したいのかを
→ 把握する。

図4-3-1 利用者カテゴライズ

①と②が利用者そのものの特性によるカテゴライズで、③と④は必要としている情報の特性によるカテゴライズです。
非利用者の場合は、③④は把握することができないため、広報は①②に集中することになります。

11章 図書館Webデザインのポイントとコンテンツ

メインのナビゲーションとして左サイドにメニューのローカルナビゲーションを配置し、タイトル下部にグローバルナビゲーションとパンくずリストを配置しています。大まかなレイアウトは上部のロゴとタイトル、グローバルナビゲーションとパンくずリストまでがヘッダー領域。中央がコンテンツ領域。下部がフッター領域になります。

中規模から大規模までの図書館に対応していますが、ややコンテンツが多すぎて見づらくなりがちと思われます。腕の良いデザイナーに力をふるってもらう必要があるようです。

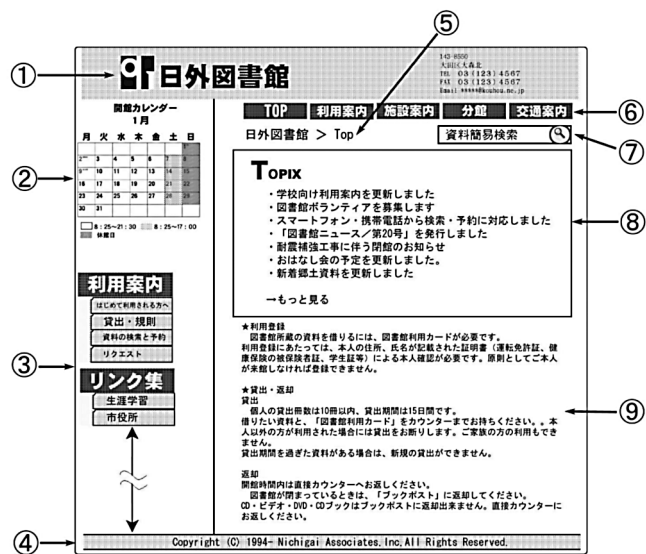


図11-6-1 Webサイトのデザイン例

では、左上より番号順にレイアウトや配置を中心に、注意点を加えて解説します。

■「序章」より抜粋■

～特にWebサイトの場合は、いったん作成したものに更新を繰り返しつつ、長く利用していきます。「すぐにこの件をアップしなくては」と新しい情報やページを付け加えていくことの連続です。更新を繰り返した結果、Webサイトの構造やデザインがいつしか使いにくくなっているかもしれません。

～（中略）～

さまざまなことがよく分からないまま、スケジュールに追われ、それでも頑張っている図書館員の方たちの声を切実に感じました。

折からWebサイトに関わる日本工業規格JIS X8341-3や総務省の「みんなの公共サイト運用モデル」が改正されたこともあり、この本の企画を提案いたしました。章としては後半の7章から12章にあたります。

その後、なぜ積極的な発信が必要なのか、お知らせやニュースだけに止めておいた方が良くないのかなど、図書館広報について理解の不足や疑問、不安があるため、情報発信が自信を持って行えないという意見を受け、広報の理論についての概説を前半に、またWebの最新の技術や流行とブログ、ツイッター、フェイスブックなどのソーシャル・ネットワーキング・サービスのツールの解説を中頃に取り入れて、この本の構成としています。

～（中略）～

広報活動とWebサイトを担当するすべての図書館員が、自らの知識を整理・確認し、日常の業務に役立てられるように、また、必要なときに手にとって見直すことができる参考書となることを本書の目的としています。